

知財戦略策定アクセラレーションプログラム IP BOOSTER HOKKAIDO

革新的な技術・アイデアを持つ起業予定の個人、スタートアップ等を対象に
知財・ビジネスの専門知識を持つメンターが事業の創出・成長を伴走支援します。

プログラム参加者・参加企業募集

募集期間 8月8日(金)～9月12日(金)17:00

事業内容

支援対象

知財戦略の策定・強化により事業の創出・成長を目指す

- ☒ 北海道内の起業予定の個人(学生・研究者など)
- ☒ 北海道内のスタートアップ等 ※設立年や業種・業態は問いません。

支援内容

課題に応じた知財・ビジネスの専門家を派遣し、
知財戦略の策定・強化などのメンタリング・助言※1

- 募集件数** 9者程度
- 支援期間** (決定日)～2026年2月27日(金)
- 支援回数** 5回程度
※支援の進捗状況に応じ、回数は変更される場合があります。
- 支援方法** 原則オンライン実施(Microsoft Teamsなど)
- 支援内容**

- 1 知財戦略の構築**
(情報調査・分析／出願戦略の構築・見直し など)
- 2 外部との交渉・連携**
(大学・高専とのライセンス交渉／顧客との契約 など)
- 3 社内の体制構築**
(規程の整備／外部専門家の活用策／社内教育体制 など)

※1 専門家が各種役務を代行する事業ではありません。

※2 希望する支援内容、事業領域などに応じ、弁護士・弁理士などの士業、ベンチャーキャピタリストなどから運営事務局が選定します。

【専門家の例】※2



グローバル・ブレイン株式会社

パートナー／弁理士 廣田 翔平 氏

三菱電機に入社後、知財戦略の構築から権利化までの特許業務全般に従事。2020年にGBに参画。知財チームを立ち上げ、投資時の知財DDと投資先に対する知財支援業務に従事。



One ip 弁理士法人

代表／弁理士 中畑 稔 氏

2008年特許事務所入所、2013年よりスタートアップの知財部創設や取締役を複数社経験しスタートアップ支援に特化したメンバーで現事務所を設立。知財支援は700社、自己勘定投資先は30社を超える。



AN Venture Partners

シニアプリンシパル／弁理士 島田 淳司 氏

大手特許事務所の特許業務全般に従事。武田薬品工業やバイエル薬品、UTECを経て、2024年にANVIに参画。ライフサイエンス分野の投資、投資先の経営支援業務を担当。



SK 弁理士法人

代表社員／弁理士 奥野 彰彦 氏

サントリーで研究開発に従事後、大手特許事務所・法律事務所を経て、2008年に独立。2023年にがん治療薬開発を行う長崎大学発スタートアップSCMバイオメディカを共同創業。

【事業スケジュール】※3

※3 現状の想定であり、予告なく変更される場合があります。

事前相談・応募期間

2025年
8/8(金)～9/12(金)

書類審査

2025年
9月中旬～下旬

支援先の決定

2025年
9月下旬

専門家の伴走支援

2026年
～2/27(金)

注意事項

応募資格、応募方法などの詳細は、「募集要項」を必ずご確認ください。
経済産業省北海道経済産業局のホームページからダウンロードできます。

<https://www.hkd.meti.go.jp/hokig/20250808/index.htm>



▼主催・お問い合わせ先

経済産業省北海道経済産業局
地域経済部 産業技術革新課 (担当：千葉・椎山)

運営 株式会社北海道二十一世紀総合研究所 (担当：清家・高松)

☎ 011-709-2311 (内線2588)
✉ bzl-hokkaido-shinki-renkei@meti.go.jp

令和7年度スタートアップ等の創出・成長に向けた知財戦略策定アクセラレーション事業

これまでの支援内容の一部をご紹介します

知財・ビジネスの専門家とともに、過去3年間で延べ38者を対象に
各支援先が抱える課題に応じて寄り添った支援を159回実施しました。

※「令和4～6年度スタートアップ等の知財戦略策定アクセラレーション事業」における支援先・伴走支援回数の総数

出願戦略の構築支援

■支援先 医療機器系スタートアップ(シードラウンド)

■担当専門家 スタートアップ支援コンサルタント・弁理士(派遣数4回・約6か月間)

【プログラム参加前に抱えていた課題】

- ① 開発資金の確保に向け、投資家からの資金調達を希望していました。ピッチコンテストの参加経験がなく、投資家目線に沿った資料を作成したいと考えていました。
- ② コア技術の権利化に取り組み、プロトタイプの特許出願を行いました。開発面の進捗があり、出願済特許の取り扱いの検討、改良技術の出願戦略の構築を希望していました。

【プログラム中の支援内容】

- ① 解決したい課題、ビジネスアイデア、既存・競合技術との比較優位性などの5項目に沿って、投資家の視点を説明してもらい、プレゼン資料を改良することができました。
- ② 担当専門家との協議のもと、出願済特許を基にした国内優先権出願を行う方針を固めました。支援期間終了後、専門家に出版代理業務を依頼し、コア技術の権利化に取り組んでいます。

外部との交渉・連携支援

■支援先 農業系スタートアップ(シードラウンド)

■担当専門家 弁護士(派遣数6回・約4か月間)

【プログラム参加前に抱えていた課題】

- ① 共同研究先との契約内容に潜在的なリスクを感じ、第三者の確認を得たいと考えていました。
- ② 原料販売に取り組んでいます。化粧品メーカー1社から購入打診があり、初めての取引となるため、売買契約書のひな型作成を希望していました。

【プログラム中の支援内容】

- ① 発明の帰属などの契約内容に、自社に潜在的に不利となる条項が含まれていないことを確認できました。今後、共同研究から業務委託への切り替えを提案され、検討しています。
- ② 売買契約における契約条項の設計を実施しました。その後、タムシートとの交渉結果を反映させた売買契約書(素案)の作成をサポートしてもらいました。支援期間終了後、メーカーと契約締結し、販売取引を開始しました。

社内の体制構築

■支援先 AI系スタートアップ(ミドル・レイトラウンド)

■担当専門家 弁理士(派遣数5回・約4か月間)

【プログラム参加前に抱えていた課題】

- ① 特許抵触性の調査や発明提案が開発フロー上で位置づけられておらず、特許取得促進に向けた仕組みづくりを検討していました。
- ② 事業規模が拡大し、従業員の出入りが頻繁に起こる中、従業員の知財教育を管理しにくく、有効な方策を検討していました。

【プログラム中の支援内容】

- ① 他社の事例を交えながら、従業員への発明の意識付け、知財教育の進め方を説明してもらいました。従業員は発明提案書を作成し、外部調査会社が発明調査を行う役割分担のもと、制度の運用を開始することができました。
- ② 資料の作成をサポートしてもらい、経営陣・従業員向けの知財勉強会を開催しました。AI領域における知財活動の重要性をテーマに、専門家から特別講演をしてもらいました。

※ 各支援先への支援内容は、事業の状況や抱える課題など、応募様式の記載内容などに基づき、担当専門家と協議のうえで決定します。上記は一例となります。

知財戦略策定アクセラレーションプログラム「IP BOOSTER HOKKAIDO」の詳細は
経済産業省北海道経済産業局のホームページをご覧ください。

<https://www.hkd.meti.go.jp/hokig/20250808/index.htm>

